

12月教育委員会会議会議録

日時：令和6年12月18日（水） 午後1時30分

場所：山口県教育庁教育委員会室 (公開)

<p>教 育 長</p>	<p>それでは、ただいまより令和6年12月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>和泉委員、廣兼委員よりよろしくお願いします。</p> <p>それでは、本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第1号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承 認</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、議案第1号については、非公開で審議することといたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、報告事項に入りたいと思います。</p> <p>報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
<p>教 職 員 課 長</p>	<p>お手元の資料①の2ページを御覧ください。報告事項1、令和7年度山口県立学校職員採用候補者選考試験の選考結果について御報告します。</p> <p>はじめに、試験の概要についてです。3ページの参考資料を御覧ください。実習助手及び寄宿舍指導員について、1の表に示した選考区分、志願区分、採用見込者数と5に示した試験の内容により、10月27日に山口県セミナーパークで試験を実施しました。6にお示ししたとおり、11月29日に採用候補者名簿登載予定者を発表し、受験者全員に選考結果を通知したところです。それでは2ページにお戻りください。</p> <p>まず、1の選考結果の概要ですが、実習助手については、表の志願者数の合計欄に示したとおり、19人の志願があり、欠席者を除いた15人が受験し、選考の結果、4人を採用候補者名簿登載予定者となりました。倍率は3.8倍となりました。寄宿舍指導員については、5人の志願があり、5人が受験し、選考の結果、1人を採用候補者名簿登載予定者となりました。倍率は5.0倍となりました。</p> <p>なお、2のその他にお示ししているとおり、採用候補者名簿登載予定者については、12月27日に、教員採用候補者名簿登載予定者と併せて、着任までの心構え等について学ぶ任意参加の研修を実施することとしています。以上、御報告します。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ただいま、教職員課から報告事項1について説明がありましたが、</p>

	意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	募集が各1名程度ということで募集をかけられて、残念ながら土木建築系について今回登載予定が0名となっています。1名程度を予定されていたということですが、そういった人材が必要で募集されていたと思うのですけれども、これは埋まらなかったということで、来年度はどのように対応するのでしょうか。
教 職 員 課 長	確かに1名募集しておりましたけれども、この埋まらなかった部分につきましては臨時的任用等に入ってもらう方を探して、そこに充てていきたいと思っております。
和 泉 委 員	ぜひ、学校現場の運営が回るような人材の確保に努めていただければと思います。
教 育 長	それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。 続いて報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。
義 務 教 育 課 長	<p>10月に実施した山口県学力定着状況確認問題の結果につきまして御報告いたします。7ページの上側、本調査の目的を御覧ください。</p> <p>本調査は、子どもの学力状況の把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等を進め、学力の確実な定着と向上を図ることを目的の一つとしています。本年度は、7ページの真ん中辺りにお示ししておりますような1人1台端末を使ったC B T方式で調査を実施しました。</p> <p>なお、来年度は全国学力・学習状況調査、以後全国学力調査と言いますが、それにおいて理科が実施予定であることから、現状を把握し、指導改善に生かすために、小学校5年生と中学校2年生で理科の調査を実施しました。それでは、調査の結果についてお伝えします。まず、9ページを御覧ください。</p> <p>(1)には、各学年・各教科の平均正答率をお示ししています。</p> <p>(2)には、教科ごとに、主な成果と課題をまとめています。例えば、9ページの下側、小学校国語では、「目的や意図に応じて、取材内容をもとにして、自分の考えを文章にまとめること」について、正答率が35%でした。同様の問題が出題された今年度の全国学力調査では、正答率が59.7%という結果だったことから、継続した課題であると捉えています。何をどのような順序で書けばよいかは分かるものの、それを文章として表現することに困難さをもっている子どもが一定数いるものと考えられます。各学校が子どもの誤答を丁寧に分析することで課題を明確にし、次へのアクションを起こし、子どもたちに生きて働く確実な学力を定着させるよう支援していきたいと思っております。また、10ページの一番下、中学校数学では、「平行四辺形の面積の求め方における底辺と高さの関係を理解すること」について、正答率が68.1%でした。この問題と類似する問題が出題された令和5年度の全国学力調査では、正答率が18.2%だったことから、問題の難易度を考慮しても、各校においてやまぐちっ子学習プリントを活用した補充学習や指導改善が図られていると思っております。</p>

次に、児童生徒質問調査の結果についてお伝えします。26ページの質問2を御覧ください。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか。」についてです。この質問は、自らの課題の解決に向けて自立的に学ぶ姿の実現状況を把握するために尋ねたものです。小6では、肯定的な回答をした割合が、全国学力調査の結果と同様に約80%でした。今後、教員が子どもとともに課題や学び方を設定するなど、魅力ある授業づくりをめざすとともに、主体者意識をもった子どもを確実に評価していくことのできる指導体制の確立にも努めてまいります。

次に、28ページを御覧ください。質問4「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し（振り返り）、次の学習につなげることができているか。」についてです。この質問は、県教委が進めている「引き出したい振り返りを意識した授業づくり」の現状を把握するために尋ねました。同一学年で経年変化を見ると、肯定的な回答をした割合が減少していました。授業終末に振り返りの活動は設定されているものの、子ども自身は、学習内容をしっかりと振り返ることができていないと感じているということが考えられます。今後は、後ほど51ページでも説明しますが、子どもが分かったことを知識・技能として自覚できるような授業の工夫とともに、それらを表現できることにより、充実した振り返りが展開されるよう心がけてまいります。

最後に、家庭・地域と連携した教育に関する質問について、46ページを御覧ください。ここでは意識の変化を見るために、同一学年での経年変化を追いました。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか。」について、肯定的な回答をした割合が若干減少していました。「地域の人々と話し合う場（熟議）に参加して、発言したことがあるか。」については、小6と中2で、肯定的な回答をした割合が増加していました。さらに、48ページの「学校で地域の大人が学ぶ姿を見て、自分も頑張ろうと思ったことがあるか。」については、全ての学年で、肯定的な回答をした割合が50%を超えていましたが、学年が上がるにつれて減少していました。このようなことから、子どもが、地域の大人と関わる機会は設けられているものの、なぜこれが大切なのか、学校や教員、さらに子どもたち自身がしっかり理解していく必要があると考えています。

今後の取組について、51ページを御覧ください。やまぐち型地域連携教育により、学校の組織力の充実、教員の授業力の向上、学校・家庭・地域の連携力の強化の三つの視点からの取組を推進するとともに、1月に実施する検証・改善委員会においてもこの結果を報告し、客観的評価を受け、取組の意義や目的を確認しながら推進すること、取組の進捗状況を確認することを重視しながら、検証・改善に取り組んでまいります。具体的には、やまぐちっ子学習プリント等を活用した課題を課題のままにしない取組、各調査から得た課題の焦点化、引き出したい振り返りを意識した授業づくり、身近な大人や先輩の生き方・考え方に触れる機会の充実に重点を置き、各学校の取組を引き続き支援していきます。以上で、説明を終わります。

教 育 長

ただいま、義務教育課から報告事項2について説明がありました

木 阪 委 員	<p>が、意見、質問はありますか。</p> <p>今回C B Tというものを使っておられますけれども、この成果や課題があれば、教えていただきたいです。</p>
義務教育課長	<p>C B Tについての御質問についてお答えいたします。子どもたちが、これから確実にコンピュータの環境に慣れて、あるいはそれを上手に活用して生きていく、暮らしていくということが望まれていると思います。そういった中で、子どもたちがこのコンピュータの操作に慣れること、国もこのC B T化というものをかなりめざしているところです。成果としては、学校がこのC B Tの調査に向けて、子どもたちにコンピュータの操作に慣れる、特に指で操作するとかタイピングするとか、そういったところを子どもたちと一緒に練習することも見られることから、コンピュータの操作にかなり子どもたちが慣れてきている、という成果が考えられます。また、コンピュータ、パソコン、タブレットを使って調べものをするなど学習の多様化が進んでいると考えております。</p> <p>課題はハード面で若干ございます。一斉に操作を行った場合に動きが遅くなるなどのトラブルはございますが、その点においても各市町教委の御努力により、通信速度とかそういったものがかなり改善されてきていると思います。また子どもたちに、コンピュータを使うことだけが目的にならないように、あくまでもコンピュータを使うというのは、子どもたちがこれから学習を豊かにしていく、あるいは知識を豊かにしていく上で便利なものであると同時に、これからそのコンピュータの使い方やモラルについても身に付けるように配慮してまいりたいと考えております。</p>
伊 藤 委 員	<p>質問6の部分で「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。」ところに関して、約8割以上ですね、子どもたちが当てはまる、どちらかといえば当てはまるというような回答から、山口県の先生方が皆さん努力をしていらっしゃるということを実感しました。また、やまぐちっ子学習プリントというものがあり、子どもたちに配布されているということを知って、すごく驚いて、こんなことまでされている皆さんの御努力に感謝したいと思います。それで小学校の子どもたちというのは、結構活用している子も多かったのですが、中学生になると頻度が少し少なくなっています。中学生になると親御さんが塾などに行かせるということがあるので、そういった理由により頻度が減っているのでしょうか。あと感じたことが、今回の調査によって、いろいろなデータが出ているんですけども、記述式の部分の数値が大変低かったように思います。これがこれからの山口県の課題になるのかなと思っているのですが、その辺りはどのようなお考えですか。</p>
義務教育課長	<p>やまぐちっ子学習プリントの中学生の利用頻度が少ないのではないかという御指摘ですが、これについては、確かに中学校は教科担任制で進んでおりますので、これまでプリントを利用する時間が確保できない状況がありました。ところが最近、校長先生方や市町教委の御努</p>

	<p>力により、なんとかして分からないことを放っておかない、あるいはその子どもたちにとって学びの不安をしっかりと解消していこう、その一日のうちになんとか学び直しの時間を設けようという取組が進んできております。徐々に広がってきており、特に今年度は進んでおります。そこで中学生もこのやまぐちっ子学習プリントを使って基礎事項の確認を徹底し始めたという好事例が、県内で多くあります。</p> <p>記述式についてですが、今山口県では、先ほどから申し上げた授業の最後に引き出したい振り返りとしまして、子どもたちが自分の学びのプロセスを振り返って書いたり、あるいはその時間に学び取った大事なことを書いたりということを授業の終わりに進めております。そういったことを引き続き継続・強化していき、子どもたちが自分の考えをきちんと伝えることのできる表現力を身に付けるように支援してまいりたいと思います。以上です。</p>
伊藤委員	<p>子どもたちがどのくらい月に本を読んだかというような質問事項があるのですが、やはり読書量が少ないのも原因ですか。</p>
義務教育課長	<p>根拠資料は無いのですが、私が現場の校長を務めたことがありますので、その感覚でお話します。読書というのは、子どもたちが自分の世界にしっかりと没頭して字を自分の頭の中に入れていくという作業で、その中で子どもたちがそこを知識として、あるいは子どもたち自身の見方・考え方として、見るものを身に付ける上で重要だと考えております。そういった読書活動というのは、子どもたちの表現力を引き出す上で無くてはならない活動ととらえております。限られた時間の中で、この読書という機会が奪われないように、我々も支援してまいりたいと思っております。</p>
藤田委員	<p>質問というか、お願いという感じになると思うのですが、今日午前中、公安委員会との意見交換でも出ましたけれども、困った時に相談できる場所があるかないか、自分の居場所というのに関連するものが、資料の42ページの質問で、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問のところですね。下の方にある類似の質問結果、ここの割合が低くなっており、ここの割合が上がってくるような取組をお願いしたいと思います。午前中も申し上げたのですが、困っていてもどういったことに困っているか、発達の段階で、例えば小学校1年生と中学校1年生で考える力が違うので、何に困っているかというのをきちんと言語化できない子どもたちがいると思うので、そういったサイン、不登校になったり、暴力的になったり、どこかで出ていると思うので、スクールソーシャルワーカー等の力を借りて、そういったところもケアしてもらえるようにお願いしたいなと思います。</p> <p>それと個人的に少し驚いたのが、48ページにある「学校で地域の大人が学ぶ姿を見て頑張ろうと思ったことがありますか。」というところの割合が中学校2年生になったら減っているのですね、それはなぜなのでしょう。これは大人も頑張らないといけないと思いました。原因というか、なぜそこで下がるのだろうかという疑問に思ったので、理由があれば教えていただけたらと思います。</p>

義務教育課長	<p>最初のお尋ねについて、児童生徒が困っていることをきちんと話せる場所があるかということだと思っておりますが、おっしゃるとおりで、今不登校等を取り巻く大きな要因の一つとして、学びの場ということをお県教委としては捉えております。子どもたちが分からなかったことを分からないと言える機会があるのか、言える人がいるのか、そしてその時間は確保されているのか、場所と人と時間ということについて考えていきたいと考えております。一つは学校安全・体育課とも一緒になり、ステップアップルームへの取組も強化しております。分からないことの不安の解消に繋がりたいということで、そこに相談できる先生がいるようにしています。そして、他の教員においても、もう一度意識をもち直し、本当に全ての子どもたちにとって分からないと言える機会が用意されているかどうかということは、市町教委の課長会議で申し上げたところです。引き続き、そこも強化してまいりたいと思っております。</p> <p>大人の学びについてですが、私も少し驚いております。ただ、大人の学びを山口県が進めている理由は、大人の真剣で一生懸命な姿を子どもが目当たりすることで、自分もあんな大人になりたい、あんな大人のようになるためには、今自分はどうすればいいんだろう、ということを考える機会が学校で設けられるようにしたいという思いでおります。そういった意味で中学生は、多少シャイな時期になってきているかもしれないので、そこをもっと思い切って大人の方と関わることができるような機会を設けたいと思います。そういうことは、山口県では進めてまいりたいと思っております。</p>
教 育 長	<p>小学校には大人が結構入って一緒に学んだりしますが、中学校に入る機会が少ないから子どもが大人を見る機会が中学になると減る、だから数値が下がるのか、それとも大人が入る頻度はほぼ変わらないが、中学校の数値が低いのか、どうでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>今手元に資料はないのですが、頻度は変わらないと思っております。というのが、中学校においてもいろいろな形、例えば大人の方が学校に来られて、同様の授業を受けることは盛んに行われておりますので、そこは中学生も受け入れてくれていると思っております。何か感じているとは思いますが、それが表現できずにいるのかなと思っております。機会は同じであります。</p>
教 育 長	<p>この前学校視察で行った文洋中学校は、大人もたくさん入って一緒に授業を受けたりしていました。そんなことが各学校では頻繁に行われているということでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>そうです。大人の方が一生懸命学ばれたり、あるいは道徳の授業等で大人と子どもと一緒に考えたりとかそういう場面も増えてきております。</p>
伊 藤 委 員	<p>質問3の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思</p>

	<p>う。」というところで、全ての学年で肯定的な回答の割合が90%になっていました。3月に教育委員を拝命して、まだ数校の学校しか視察していないのですけれども、いろいろな学校を見させていただいて、今の対話的で深い学びという理念が生かされて、子どもたちが積極的にお互いの意見を出し合い、話し合ったり、調べたりしていることに驚きました。昔の授業、私達の世代では発言したい子が発言して終わっていたように思います。でも今では、どんな子も輪になって自分の意見が出し合えるというのが山口県では本当に徹底されているんだなということ、努力されていること、皆さん大変な御苦労だったんだろうなと身に染みて分かりました。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>小・中学校において、一時期コミュニケーション能力の不足ということが叫ばれ、これは現行の学習指導要領にも掲載されていることです。このコミュニケーション能力というのは、自分の考えをきちんと伝える力、相手の言葉をきちんと受け取る力です。そういったところを学校の中でも育てていかなければならないと考えていまして、引き続きそれらが子どもたちの中で育まれていくように授業改善を進めてまいりたいと思います。</p>
<p>廣 兼 委 員</p>	<p>この調査、自分の子どもが受けました。感想を聞いたんですが、問題用紙を机に置いて、解答はタブレットという手順が大変だったと聞きました。普段タブレットを使った学習があまりないので、調査でタブレット使用となると疲れた部分もあると思います。これを1年生の頃からやっていたら、もっとスムーズにできたかもしれないということをしていました。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>学校によって、そういった取組の差異が生まれてきていることは県教委として把握しておりますが、そういうことにならないように全ての子どもにとって水準が保たれるように、ICTの活用について引き続き伝えてまいりたいと思います。</p> <p>なお、操作等に関しては、今おっしゃっていただいたように経験しているか、していないかということが大きな分岐点になってくると思いますので、そこも引き続き全ての学校に対して助言等してまいりたいと思います。</p>
<p>和 泉 委 員</p>	<p>今回、ICT機器を使って集計されて、そういった働き方改革にもなっているのかなと思いますけれども、せっかく集めたデータですので、指導と評価の一体化ということで上手く活用して、来年度以降に繋げていただければと思います。</p> <p>一点だけ気になったのは37ページの質問15「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、学級の友達と意見を交換する場面で、どの程度使用していますか。」という部分です。これから次の学習指導要領の中にもNEXT GIGAということで、ICT機器の活用は調べ学習のためだけではなく、こういったコミュニケーション、共有しあえるツールとして使うということが推奨されるという議論もあるので、この数値がもっと増えればいいなと思っています。また、同一児童生徒の経年比較を見ると、去年の小6、今年の中1で減って</p>

<p>義務教育課長</p>	<p>いるように見えます。小学校よりも中学校の方の利用が少ないのかなと感じてしまうのですが、何かそういった傾向があるのでしょうか。</p> <p>子どもたちの協議の場で、そういったICTを使うというのは本当に大切なことです。ICTは、調べ学習等でメインに使われることが一昔前に流行っていました。今では、例えばこれまで友達の意見を一人ひとり聞いていたことを、タブレットに全員が表現してモニター等に表示することで一斉にみんなの意見が分かる、そこでいろいろな意見があることを自覚した上で関わり始めるといったようなことが学校現場ではたくさん行われ始めています。そういった意味で、協議にICTを使うというのが非常に有効だと考えております。</p> <p>中1になって下がるということですが、これは学習内容をしっかりと身に付けなければならないという中学校の意識もあると思います。子どもたちがしっかりとICTを有効活用できるように、引き続き支援をしていかなければならないと思っております。</p>
<p>和泉委員</p>	<p>学ぶ内容が増えてくるほど、そういった時間を取らざるを得なくなると、使用頻度も少し減る、いい加減になる気はしますが、これから子どもたちにとってICTの活用というのは重要なツールになると思いますので、引き続き現場の生徒と情報交換をしていただきながら進めてほしいと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>「各教科の勉強が好きだ。」という質問について、英語科の肯定的な回答が少し下がっています。これから世の中はグローバル化していき、英語科は大事な科目だと思うのですが、現状を教えてください。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>特に小学校において外国語活動が導入されて以来ですが、授業におけるアクティビティ、子どもたちがいろいろな行動を伴って英語を使うという活動が設計され始めております。これはもう、主流になっております。中学校3年生になると受験を控えているので、そのアクティビティの量が若干減ってきている、これはなかなか申し上げにくいところではございますが、そういったところで楽しい英語というのが進んできているからこそその傾向だと捉えております。ただ、中学校3年生においても英語の楽しさを学べるよう指導してまいりたいと思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>次回の教育委員会会議は、令和7年1月23日（木）午後2時を予定しております。よろしく申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>次の議題からは、非公開で審議することとなりました。</p> <p>関係課は教育政策課、教職員課、義務教育課となります。報道の方並びに関係職員以外の方は、退席していただきますようお願いいたします。</p>

